

総務常任委員会所管事務調査報告書

西宮市議会議長 岩下 彰 様

平成29年5月25日
(2017年)

総務常任委員会

委員長 大石 伸雄

副委員長 竹尾 ともえ

委員 菅野 雅一

〃 杉山 たかのり

〃 西田 いさお

〃 やの 正史

〃 山田 ますと

欠席委員 中尾 孝夫

随 行 半田 怜子

総務常任委員会管外視察について、次のとおり報告いたします。

1 調査先及び調査事項

調査先：兵庫県中播磨県民センター 姫路港管理事務所

調査事項：野田川防潮水門・排水機場、宮排水機場について

〔西宮における防災津波対策の参考として〕

2 調査期間

平成 29 年 3 月 29 日(水)

3 調査先対応者

姫路港管理事務所

所長

中 村 浩 康

副所長

横 山 耕

港湾整備第 1 課長

渡 邊 光 弘

4 市執行部参加者

防災危機管理局

災害対策課長

藤 井 清 一

災害対策課係長

米 澤 正 宣

5 用務経過等

午後 1 時頃、姫路港管理事務所に到着。まず、中村所長、横山副所長、渡邊課長から調査事項についての概要説明をいただき、質疑、意見交換を行った。次に、宮排水機場を見学し、最後に野田川防潮水門・排水機場を見学した。

(午後 3 時 15 分頃視察終了)

(調査概要)

西宮市内の鳴尾地区と西宮地区・今津地区は兵庫県の津波防災インフラ整備計画重点整備地区に設定され、今後津波浸水対策として、洗戎川水門、新川・東川統合水門を改築し、下流へ移設する整備が進められる予定である。今回は、西宮市における津波対策（主に水門と排水機場の機能）の参考として視察を行った。

排水機場は、高潮・津波による流水を止めるため水門を閉鎖した時、水門の内側に集まった水をポンプで強制的に外側へ排水することにより、内側の氾濫を防ぐしくみで

ある。

兵庫県姫路市の野田川と船場川に挟まれた飾磨区宮地域一帯は、飾磨港に隣接し、地盤が低いため過去に高潮による浸水被害を受けてきた。宮排水機場は、高潮による被害から県民の財産や生命を守り、安心して生活できる環境を確保するため、昭和50年に整備された。しかし、建設から30年が経過し、設備の老朽化や耐震基準の不足から改築の必要性が高まり、平成16年度から改築に着手、平成25年度まで約10年をかけて、新たな排水機場を整備した。新宮排水機場では、水門の遠隔操作、一元的な気象情報の管理、故障情報の表示などを行う「運転管理システム」を導入し、確実な運転操作、排水機能の信頼性向上、合理的な維持管理が可能となった。

一方、野田川排水機場について、野田川は昔、川幅が狭く、当初は水門だけが整備された施設であったが、その後河川改修が進み川幅が広げられたため、水門を拡張し、排水設備が整備された。当初はポンプがなく、手動で水門を微調整し、水位を調整していたが、現在は遠隔操作で水門を閉めることが可能であり、ポンプも水位があれば自動運転が可能となっている。